



#012  
2019 Spring

医師として広島県を  
“えっと”  
楽しむマガジン



# ETTO

Feature | 特集

広島の周産期医療を支える  
産婦人科医の魅力！

【えっと】  
広島県



広島県地域医療支援センター  
(公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構)  
が発行する、

医学生・研修医・若手医師に  
広島県の医療をPRするための  
広報冊子です。

今号は広島県で働く産婦人科医に  
密着して、それぞれが目指す地域の  
周産期医療を特集します。

医師として広島県を  
“えっと”楽しむマガジン

ETTO

【えっと】 2019 Spring #012

広島県地域医療支援センター (公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構)

## 高度医療から地域医療まで充実した 広島で臨床研修をしませんか



広島県には24の臨床研修病院があり、環境も病院規模も様々です。  
多彩な臨床研修病院が提供するプログラムは、  
必ずやあなたのニーズにマッチした研修を提供してくれることでしょう。

### 臨床研修病院合同説明会 (レジナビフェア) などへの出展



広島県では、できるだけ多くの研修医に  
県内で臨床研修をしていただきたいと願っ  
ています。

県内の臨床研修病院が共同で、合同説  
明会「レジナビフェア」などに出席し、お揃い  
の真っ赤なベストで医学生の皆さんをお迎  
えしています。

充実した臨床研修を受けられる広島  
にぜひお越しください。

### 若手・女性・ベテランの 活躍支援



県内で活躍する医師のために様々な  
支援を行っています。

若手医師への医療機関横断的な研  
修支援、女性医師が働きやすい勤務環  
境整備・復職研修支援・子育て支援、  
定年勤務医等への求職支援など、やり  
がいをもって活躍できる環境づくりを進  
めています。

### 広島県での就業支援



広島県での就業をお考えの医師の方  
に、無料の職業紹介事業の許可を得  
て、UIJターンの支援をしています。

ウェブでの求人情報の提供のほか、  
個別のご相談にも対応しています。

具体的な時期が決まっていなくても構  
いません。お気軽にご相談ください。

### 暮らしやすく楽しめる広島

広島県は、「日本の縮図」といわれているように、経済・社会・文化・商業・工業の様々な要素をもち、「都市」としての機能を有しながら、「自然(海・山)」も豊か。最近ではサイクリストの聖地として「しまなみ海道」に来られる方も増えています。さらに全国・県内移動のアクセスに優れているのも特徴。どんな人にも住みやすく、自分らしく自由に暮らすことができる、贅沢な地なのです。



### 地域医療への扉

## ふるさとドクターネット広島

広島県地域医療支援センター(公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構)

<http://www.dn-hiroshima.jp>



広島県地域医療支援センターは、広島県・県内全市町・広島県医師会・  
広島大学が協働し、広島県の地域医療の確保等のため、平成23年7月に  
設置された公的団体です。

わたしたちは、広島県内の地域医療の確保に向けて、医師の地域偏在解  
消のための配置調整や医師確保、人材育成等に総合的に取り組んでいます。

医師の立場からの助言ができるよう、医監も在籍し、みなさまのご相談やご  
希望を伺っています。

【お問合わせ】 広島県地域医療支援センター (公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構)  
〒732-0057 広島市東区二葉の里三丁目2-3 広島県医師会館4階  
電話：082-569-6491 FAX：082-569-6492 E-Mail：iryuu@hiroshima-hm.or.jp





## 臨床と研究の両輪で 産婦人科学の未来を考える

# 広島大学病院

広島県における高度先進医療を担い、  
県内の医療をリードする広島大学病院。  
人材育成や研究分野でも大きな役割を果たしており、  
県内の産婦人科医療の充実・発展に向けて日々尽力されています。  
その一例として、広島県の妊産婦死亡率及び周産期死亡率の低さは  
全国でもトップクラスであり、広島県の周産期医療の充実に  
大きく貢献しています。  
また、広島県で唯一の医学部を有する大学として、  
全国的な課題でもある産婦人科医不足の解消に向けて、  
大きな期待が寄せられています。  
広島大学病院で診療講師・統括医長を務める平田英司先生に、  
現在、同院を中心に県内でどのような取り組みがされているのか、  
お聞きしました。



——まず初めに、平田先生が産婦人科医を目指されたきっかけをお聞かせください。

研修先だったJA尾道総合病院の産婦人科に腫瘍治療のスペシャリストの先生がいて、その先生にいろいろ教えてもらううちに「婦人科腫瘍学は奥が深い」と思うようになったからです。産婦人科のなかでも婦人科腫瘍の治療は、医師の腕によって一番差が出やすい分野。手技だけではなく、診断も含めて結果に違いが出ます。それほど専門性が高く、一生の仕事としてやっていくのに面白そうだと感じました。  
産婦人科領域でも専門の細分化

——医局長として、県内で唯一の大学病院が担う役割は何だとお考えですか。

産婦人科には、「周産期」「婦人科腫瘍」「生殖医療」「女性医学」の4つの柱があります。そのうち生殖医療に関しては連携先の県立広島病院に主要な機能を移していますが、障害、精神疾患など、社会的な課題を抱えている方々も多くいらっしゃいます。もしかしら10回説明しても理解が難しい患者さんかもしれない。そうしたことを頭に入れて、丁寧に話をする必要があります。

医師として常に自分を高めて研鑽を積むことはもちろん大事ですが、決して患者さんより、偉い、わけではありません。私も若いころ「患者さんが外来に寄りつかないような医師にはなるな」と厳しく言われてきました。患者さんに「また診てほしい」と思ってもらえるにはどうすればいいか。一人ひとりが考えながら、人間力を磨いていってほしいですね。

——最後に一言

患者さんと医師がお互いを尊重しながら治療を進め、身体が良くなるのと同時に心も良くなっていく。それが理想の診療ではないでしょうか。

### 平田 英司 先生

Eiji Hirata  
広島大学病院 産婦人科  
診療講師・統括医長

——研究分野でも力を発揮されていますよね？

研究で医療を前進させることも私たちの役割の一つ。産科婦人科学講座を率いる工藤美樹教授は、胎盤生理学分野で世界的な権威ですが、

それ以外の3分野については広島大学病院が専門医取得の修練施設として学べる環境を整えています。人材育成は大学病院の重要な役割。国内で6番目に婦人科系がんの症例数が多い四国がんセンターにも、当院から医師全員を派遣しています。  
現在、産婦人科には助教が5人いますが、実は広島大学出身者は一人なんです。いろいろな大学を出た人たちが集まっているので、垣根のない自由な雰囲気があり、やる気次第でそれぞれの専門分野を伸ばしている環境だと思います。

大学院生にも積極的に指導をされています。

また、当院は中四国で最初にダ・ヴィンチを導入しました。ロボット支援手術のような先端医療をいち早く取り入れるのも、大学病院の使命だと考えています。公共性の高い病院だからこそ、病院の費用負担が大きい医療にも積極的に取り組むべきです。例えば腹腔鏡のような採算の取りにくい分野でも、率先して技術開発の支援をしていく必要があります。ダ・ヴィンチは導入直後に全国的に事故が多発し問題視されたため手術を休止していましたが、治療のガイドラインが整ったこともあり、今年度から再開する予定です。

——さて、広島県においても産婦人科医が不足しているとお聞きしましたが

少ない医師の数で県内のお産に対応していくためには、NICUを備えた高度な周産期医療を提供できる病院や、地域に一つしかないような医療ニーズの高い病院に医師を集約していく必要があります。病院の集約化においては行政との連携が欠かせません。どの病院にどの機能を持たせていくか、10年、20年先を見据えた計画が大切だからです。産婦人科だけではありませんが、将来県内の医療に貢献してくれる人材を育てるために、広島大学医学部の入学制度として県が奨学金を貸与するかわり

### HOSPITAL DATA



### 広島大学病院

〒734-8551  
広島県広島市南区霞1-2-3  
TEL: 082-257-5555  
<https://www.hiroshima-u.ac.jp/hosp>



## 少数精鋭のチームワークで 地域の周産期医療を支える

# 東広島医療センター



2012年10月に地域周産期母子医療センターを開設し、  
広島中央医療圏のハイリスク症例を一手に引き受けている東広島医療センター。  
待望の周産期センターとして、  
地域の産婦人科医院から絶大な信頼を寄せられています。  
にこやかな笑顔が印象的な児玉尚志先生に、同院の特徴をお聞きました。



広島市の中心部から車で1時間ほどのところにある東広島医療センター。森に囲まれた自然豊かな環境で、落ち着いた学べる研修先としても人気の病院だ。医療圏は東広島市・竹原市を中心に、人口約20〜25万人をカバー。医師の高齢化によって地域の産婦人科医院が次々とお産の取り扱いをやめていくなか、分娩に対応できる施設として2012年10月に地域周産期母子医療センターを開設。正常な分娩からハイリスク症例まで、一手に引き受けている。

「特にハイリスクの妊娠・出産に関しては、この地域でほかに対応できる病院がないため、患者さんが集中しています。高齢出産の増加に伴って、妊娠高血圧症や筋腫などの合併症のリスクも高まるので、センター病院としての役割はますます大きくなっていると感じます」

そう話す児玉先生が医師になったばかりのころには珍しかった40歳以上のお産も、最近では頻繁にあると言ふ。注意をしなければ急変の可能性も



6床あるNICUで新生児の集中治療に対応。  
広島中央医療圏でNICUがあるのは同院だけ。



児玉 尚志 先生  
Takashi Kodama  
産婦人科 部長

ハイリスクな分娩ケースでは小児科医が必ず待機して、すぐにサポートできる体制。

あるため、設備が整った医療機関でしっかりと管理をすることが重要である。そのために欠かせないのが、地域の産婦人科医院との連携だ。

「分娩の扱いのないクリニックには妊娠32週目までの検診を中心に診てもらい、こちらではその後の分娩までの診療を引き受けます。お産を扱うクリニックでは、分娩前の血圧上昇や難産になりそうなケース、分娩途中の進行状態の悪化があれば当院に搬送してきます。緊急に搬送される症例は月に5、6例はあります。これまでそうした緊急症例は広島市内の病院まで搬送していましたが、ここで治療ができるようになったことで、患者さんや地域の先生方の安心につながっているのではないのでしょうか」

開設当初、年間約350件ほどだった分娩件数は、2018年には538件に上る。そのうち約25%が帝王切開。研修医の先生たちにとっては、豊富な症例を診ることができ、強みになっている。

「異常分娩だけでなく正常分娩もある程度の数を診られることで、バランス良く対応できるようになります。正常なものが診られなければ、異常だと判断できませんからね」

内視鏡治療に力を入れているのも同院の産婦人科の特徴。県内に3カ所しかない婦人科内視鏡手術の認定施設の一つで、良性疾患の8割は鏡



視下手術を行っている。児玉先生は日本産婦人科内視鏡学会の技術認定医でもあり、若い医師たちが経験を積みながら技術を継承しているように、きめ細かくサポート。中規模病院だからこそ研修医が多くの症例を経験できるメリットもある。

「産婦人科はとても忙しい診療科ですが、みんな明るく笑顔を絶やさずに頑張ってくれているので助かっています。医師だけでなくコメディカルスタッフも含め、それぞれが自分の役割を果たしながらチームとしてまとまっている。だから信頼して任せられます」

その言葉通り、NICUに隣接したナースステーションでは、お互いに声をかけあいながらキビキビと動くスタッフたちの姿が印象的。少数

精鋭のチームワークの良さが発揮されているようだ。

ほかの診療科と比べても、患者さんへの接し方に繊細さが求められる産婦人科。若い医師たちを指導するなかで、どのようなことに気を配っているのだろうか。

「私たち医師のちょっとした言葉遣いで、患者さんの気持ちがガラッと変わってしまうことがあります。自分の思いとは違う方向に受け取られてしまい、それに対してどう接してよいか悩むのは、特に若い医師にはよくあること。すべての治療が必ずしもうまくいくわけではないので、そういう時にいかに患者さんに接するか……、誰もが突き当たる壁だと思います。うまくできるようなには、いろいろな経験が必要ですね」

そんな時、そっとフォローしてあげるのが児玉先生のスタイル。「若い先生たちの思いがきちんと患者さんに届くように、診療中に後ろから

声をかけこともある」と言う。毎日のカンファレンスで難しい症例やケアが必要な患者さんについてアドバイスをしなから、医師一人ひとりを見守っている。

「今でも記憶に残っているのは、やはりうまくいかなかった患者さんたちのこと。もちろん常にベストを尽くしますが、それでも助けられないことがあります。『もつと何かできたんじゃないか』という思いに突き動かされて産婦人科医を続けてきたのかもしれません」

学生時代の研修で、難産の末に赤ちゃんを抱っこしたお母さんの笑顔を見て、産婦人科医を志したという児玉先生。

「その時のうれしそうな顔は忘れられませんよね。そういう思いを一人でも多くの人に味わってほしいというのが、この道に進んだ大きなきっかけ。お産の後のお母さんの顔を見たら、どんなに疲れていても『よかった』と思える。それが私たちの喜びです」

### HOSPITAL DATA



独立行政法人国立病院機構  
東広島医療センター  
〒739-0041  
広島県東広島市西条町寺家513  
TEL: 082-423-2176  
<http://www.hiro-hosp.jp/>





中国・四国地方で初となる  
総合周産期母子医療センターとして、  
県内周産期医療の中核を担う県立広島病院。  
30週未満の分娩にも対応できるため、  
早産・多胎・妊娠高血圧症候群などの  
ハイリスク症例を集中的に扱っています。



## 超ハイリスク症例に対応する 県内周産期医療の“最後の砦” 県立広島病院

**榎園**：当院に来て一番驚いたのが分娩件数の多さです。こんなに扱っているんだ……と衝撃を受けました。切迫早産の入院患者さんも多いですし、30週未満での分娩・帝王切開はほかの病院では診られませんよね。

**中島**：救命可能な22週からの分娩に対応している病院は、県内では当院と広島市立広島市民病院の2施設だけ。県内初のOICU(母体・胎児集中治療室)を開設するなど最新の設備を整えているのも、当院が総合周産期母子医療センターとして、超ハイリスク症例にも対応しなければならぬからです。

**上田**：超早産や重篤な合併症といったリスクが高い妊婦さんの治療では、状態を診ながら分娩のタイミングを判断しなければならぬ難しさがありません。できるだけ妊娠を継続させたい一方で、母子の安全を考えて、

どこで分娩につなげるか慎重に見極める必要がある。だからこそ、長い入院期間を乗り越えて無事に産出して退院されていく姿を見ると、やりがいを感じます。

**森岡**：緊急の母体搬送が多いのも特徴です。僕が産婦人科を選んだ理由は、初期研修時に緊急帝王切開の手術を見て、そのスピードに圧倒されたからなんです。もともと外科系を目指していたのですが、産科の手術は本当に早かった。手伝おうとして手を出した瞬間に「危ない！」と注意されて。そのスピード感と医師たちの息の合ったやり取りに、「自分もそんなふうに行きたいな」と思ってしまったのがきっかけです。

**張本**：私も学生実習のときに初めてお産のシーンをみて、「ここだ！」と確信しました。生まれた瞬間、医師も看護師もみんなが「おめでとう」と一緒に喜んでくれたのが印象に残っています。女子校出身だったこともあって、女性の役に立つ仕事、しかも医師不足が深刻な産婦人科で力を発揮したいと思うようになりました。

**上田**：誕生の喜びを味わえるのは産婦人科だけだからね。つらい場面も当然あるけれど、特に研修医の二人にはできるだけ多く喜びの場面を味わってもらいたいです。

**八幡**：私は初期研修1年目で生殖医療科を1ヶ月回ったのですが、患者



**中島 祐美子先生**  
Yumiko Nakashima  
産科・婦人科 部長



**上田 明子先生**  
Akiko Ueda  
産科・婦人科 副部長



**森岡 裕彦先生**  
Hirohiko Morioka  
産科・婦人科 専攻医3年目



**榎園 優香先生**  
Yuka Enokizono  
産科・婦人科 専攻医1年目



**張本 姿先生**  
Shina Harimoto  
初期研修医2年目



**八幡 美穂先生**  
Miho Yahata  
初期研修医2年目

さんの診察を通して不妊治療について学べたことが貴重な経験になりました。赤ちゃんが生まれることは、奇跡なんだと改めて実感しましたし、実際に小さく生まれた赤ちゃんを新生児科の先生たちが引き受けて、NICUで一生涯懸命診ている姿にも感動しました。

**森岡**：以前、珍しい双子の経膈分娩を担当する機会がありました。帝王切開と違い、一人が無事に生まれたからといって、もう一人もスムーズに出てくるとは限らない。難しい症例でしたが、新生児科や多職種のスタッフたちと協力して分娩に臨みました。無事に産産できたときには、大きな達成感とともにチーム医療の大切さも痛感しました。

**上田**：お産は特に、チームの団結力がなければできないから。八幡：産科以外の診療では、婦人科での手術や化学療法、緩和ケアと幅広くあり、いろいろな治療に携わることができます。一人の患者さんに長く関わられるのも産婦人科の良いところですよ。

**中島**：赤ちゃんから年配の方まで、女性の一生に寄り添う診療科なので、例えば婦人科で手術をした方の娘さんの出産に関わり、またそのお子さんの出産を……と、続いていくのもこの仕事の魅力。だからこそ、患者さんに接するときには、自分のお母さんや妹だと思って診ることが大

事なんじゃないかな。

**榎園**：最近、患者さんにどういふうに説明すればいいのか悩むことがあって。同じ状況を説明するにしても、人によって感じ方は全然違いますが、はつきり言ってあげた方がいいのか、少しやわらわらげた方がいいのか……、まだ探りながらですが自分なりに考えて診療をしています。

**中島**：専攻医の二人はともややる気があるので、私たちが吸収できるものはなんでも吸収して、いつでも動けるようになってほしい。だから、ここでしか診られない週数の少ない妊婦さんの診療には、できるだけ入ってもらおうようにしています。ここでの経験がほかの病院に行ったときに役立ち、いずれは県全体の周産期医療のレベルアップにもつながる。それが私たちの目指すところなんです。

**榎園**：主治医をさせてもらえたり、ときには20週台の帝王切開まで執刀させてもらえたり、若い医師でも経験を積める環境だと思います。スキ

ルを身につけるにつれて、任せてもらえることも増えてきました。

**張本**：私たち研修医にとっては、若い先生たちが多くて質問しやすいのもうれしいです。

**榎園**：私が今やっていることは、1年後には張本先生や八幡先生がやらなければならぬこと。だから、二人には少しずつ手技を教えながら、一緒にやってもらおうようにしています。

**張本**：なかなかうまくできなくて落ち込むこともありましたが、「今できなくてもできるまで教えてあげるから」と言ってもらえて、「頑張ろう！」という気持ちになりました。

**森岡**：最近では、毎年のように初期研修医が産婦人科を志望してくれました。日々働いている僕たちの姿を見て、希望してくれる後輩がいるのはうれしいです。

**八幡**：どの先生も患者さん第一の診療をされていて、とても尊敬できる方ばかり。私も先生たちのような産婦人科医を目指していきます。



### HOSPITAL DATA



#### 県立広島病院

〒734-8530  
広島県広島市南区宇品神田1-5-54  
TEL : 082-254-1818  
<http://www.hph.pref.hiroshima.jp>





幅広い領域をもつ産婦人科こそ  
誰にでも活躍の舞台がある！

## 広島市立広島市民病院



広島二次保健医療圏の中心的な役割を担っているのが、  
広島市立広島市民病院です。急性期病院として、  
産婦人科でも何らかのリスクがある「ハイリスク妊婦」を多く受け入れています。  
ここで昨春、新たにスタートを切った二人の専攻医がいます。  
慌ただしくも、充実した日々を送る二人に、  
産婦人科での研修の様子やその魅力について  
教えていただきました。



清水 かれん先生

Karen Shimizu  
産婦人科専門研修施設群  
専門研修プログラム



入江 恭平先生

Kyohei Irie  
岡山大学産婦人科  
研修プログラム

中国地方最大の繁華街に隣接し、  
広島市中心部に位置する広島市立広  
島市民病院。広島市の基幹病院とし  
て先進的な医療を取り入れ、リスク  
が高い妊娠にも対応できる、総合周  
産期母子医療センターにも指定され  
ている。そこで、2018年春から専  
攻医として働くのが清水かれん先生  
と入江恭平先生。二人とも、産婦人科  
を専門に日々、研修に励んでいます。

「学生のころから産婦人科に興味があ  
り、初期研修をはじめ7月ごろ  
に、産婦人科医になろうと決めまし  
た。もともと、医師として長く働きた  
いと思っていました。それには、産  
婦人科がぴったりだった」  
産婦人科を選択したきっかけにつ  
いて、そう答えてくれたのは清水先  
生。栃木県にある自治医科大学附属  
病院での初期研修のち、地元であ



る山口県に近い広島での専門研修を  
決めた。

「関東と広島、専門研修はどちらも  
視野に入れていました。とはいえ、  
遠いとなかなか頻りに訪れて現場を  
見るということもできません。その  
ため、先輩や同級生を介して産婦人  
科の先生を紹介していただいたり、  
ネットを見たりして情報収集をして  
いました。そこから、広島県内の病  
院のうち2つに絞って、見学をし  
て、最終的に当院に決めました。こ  
こはハイリスクで緊急の帝王切開や  
腹腔鏡手術が必要な患者さんも多  
く、早い段階でさまざまなことに  
チャレンジさせてもらえて、多くの  
経験を積めると思ったことが決め手  
になりました」

一方の入江先生は、初期研修を広  
島市民病院で受けたのち、地元  
にある岡山大学の医局に所属。研修  
プログラムの連携施設である広島  
市民病院で、初期に続き専門研修

に励んでいる。

「僕は初期研修のころから広島市民  
病院で指導いただいています。専  
門研修に入ってから、自分が主治  
医や執刀医として任せてもらえるよ  
うになりました。同じ研修プログラ  
ムを受けている同期のなかには、ほ  
かの病院で研修を受けている先生も  
いて、情報交換をすることもあるの  
ですが、清水先生と同様、ここは早い  
段階で責任ある仕事を任せてくれ  
ているんだと感じています」

初期研修時代に比べ、任される仕  
事の幅が広がった分、責任感もさら  
に重くなったと話す二人。とはいえ、  
「入院中ずっと診ていた患者さんのお  
産で、無事にお子さんが生まれてき  
たときはやっぱり感動します」と話  
す清水先生の言葉通り、産婦人科医  
ならではのやりがいを感じることは  
多いそう。一方で、ハイリスクなイ  
メージもある産婦人科。人手不足が  
深刻な問題になっているなかで、選  
択に不安を感じることはなかったの  
だろうか。

「産婦人科医は広島県だけではなく、全国的に足りないといわれてい  
ます。そのため日本産科婦人科学会  
が主導し、医学生や研修医を対象に  
したフォーラムやセミナーなど、産  
婦人科の魅力に触れられる取り組み  
が行なわれています。保険の制度や  
ガイドラインも充実していると感じ  
ますし、学会がしっかりとサポート

しながら産婦人科全体で、盛り上げ  
ていこうという空気があると思っ  
ます」(入江先生)

実際に、学会主催のセミナーに参加  
したことがあるという入江先生。同世  
代で産婦人科医を目指す先生たちと  
も交流を深めて、「心配することはな  
いんだ」と思えたという。また産婦人  
科の魅力は、「その幅広さにある」と  
語る清水先生。

「一言で産婦人科と言っても、そ  
の領域はとても幅広いです。周産  
期、婦人科腫瘍、不妊治療……。手  
術が苦手という人でも顕微鏡を  
使って治療の糸口を探る仕事など、  
いろいろな働き方ができて、誰にで  
も活躍の場があるのが産婦人科だ  
と思います」

私自身、「長く働ける」というの  
が、産婦人科を選択した理由でも  
あります。産婦人科のこの幅広さ  
こそが、自分が長く楽しんで仕事  
ができるんじゃないかなと感じた  
魅力です」(清水先生)



清水先生、入江先生、それぞれにサ  
ブスペシャルティの希望を尋ねた  
ところ、二人とも「専門研修の中で見  
つけていきたい」と模索中の様子。上  
級医や看護師、さらに助産師の皆さ  
んに見守られながら、二人は産婦人  
科医として日々成長している。



### HOSPITAL DATA



地方独立行政法人 広島市立病院機構

広島市立広島市民病院

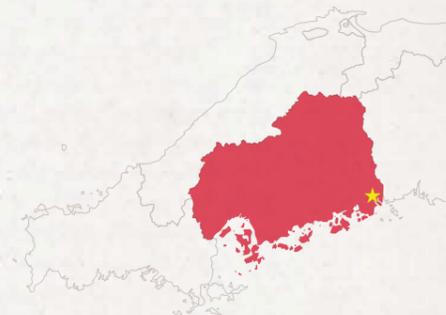
〒730-8518

広島県広島市中区基町7-33

TEL: 082-221-2291

<http://www.city-hosp.naka.hiroshima.jp>





病院全体で研修医をサポート  
実践しながら、いきいきと学べる

福山医療センター

岡山県南西部に隣接する広島県東部エリア。そこで周産期医療を支えているのが福山医療センターです。お産を扱う医院が年々少なくなるなかで、リスクの高い妊娠・出産に対応する病院として大きな役割を果たしています。



**山本 暖 先生**  
Dan Yamamoto  
診療部長（産婦人科担当）

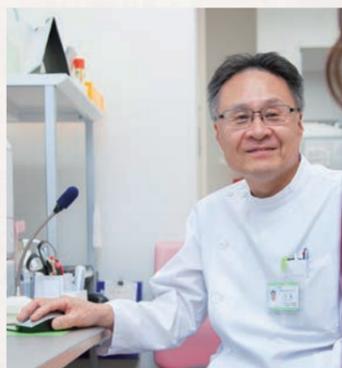
**矢野 肇子 先生**  
Hatsuko Yano  
産婦人科  
専攻医3年目

**大羽 輝 先生**  
Hikaru Oba  
初期研修医2年目

**山本**：矢野先生は後期研修の3年目で、これまでいくつかの病院で経験を積まれているけど、ここでの診療にはもう慣れたかな？  
**矢野**：初期研修を京都で受けて、その後、岡山、香川と回って4月からここで勤務しています。若い先生方が多いこともあって、自分たちで主体的に患者さんを診られるので、任せてもらえている。と実感できます。  
**山本**：若い先生たちは積極的に診療に関わってもらっています。だからうちに来た先生たちは診療スキルや手術手技がどんどん磨かれていくよね。

**山本**：大羽先生は名古屋からだったから「うちには来てくれないかな」となれば諦めていたんだけど、研修先に選んでくれてどううれしかったな。  
**大羽**：小児科や産婦人科が強い病院を全国見に行って、その中でもここが一番雰囲気良かったんです。気軽に相談し合っている先輩たちの姿を見て、ここで研修しようと思った。  
**矢野**：上級医の先生たちが優しく教えてくれるよね。私が研修を始めたころには5年目の先生はもうベテランのように見えていたけれど、実際に自分になってみると「まだまだだ」と感じることも多くて、先輩の先生方に助けてもらっています。

**矢野**：現場でどんどん実践しながら学んでいくスタイルですね。ここに来るまで自分で執刀した症例は10例くらいでしたが、ここに来て1ヶ月でその数を越えました。  
**山本**：大羽先生は初期研修2年目だけど、すでに産婦人科を選択することを決めているんだよね。  
**大羽**：もともとは小児科志望だったんですが、初期研修のはじめに産婦人科を回って「手術が面白い！」と思ったんです。山本先生は手術が早くてすごく上手。僕にとって憧れの産婦人科医です。



地域の中核病院として周産期医療はもちろんだが、婦人科がんの放射線治療でも豊富な実績を誇る。



「ばらのまち福山」として病院前の通りには花壇が並ぶ。

時には研修室で手技を教えることも。「私の真似をして糸結びをやってみて」と丁寧に教える矢野先生。

じることも多くて。先輩の先生方に助けてもらっています。だからこそ自分自身の知識や技術力を高めていきたいという気持ちになります。  
**山本**：医師として常に向上心を持って学ぶことは大切だね。  
**矢野**：以前、上級医の先生から「自分以外誰も信用するな」と言われたことが、今でも記憶に残っています。どれだけ経験を積んでも、日々努力を続けていかなければならない。「だから医師は勉強するんだ」と言われました。  
**大羽**：ここでは、たとえ研修1年目であつてもきちんと意見を聞いてもらえるのがうれしいところ。救急の研修では、最初の2ヶ月は1年目と2年目の研修医が一緒に入るので、「点滴ってどうやってつなぐんですか？」なんていう細かい疑問も聞きやすいんです。  
**山本**：そうした実習のやり方も研修医からの意見を実現させたもの。「こうしてほしい」という希望があれば、積極的に取り入れていきます。それは研修医を大事にしたいという病院全体としての考えで、学会などへの参加も病院でサポートしているよね。聴講だ

けでも費用はすべて病院が出します。  
**矢野**：研修医一人ずつのデスクにパソコンがあつて電子カルテを見ることができ、環境も整っていますよね。  
**大羽**：自由度の高いローテーションも特徴です。僕自身は、初期研修のうちにはできるだけ幅広く学んでおきたいと思っているので、必修と選択の診療科以外で12ヶ月分、自由に選べる枠があるのがうれしいです。  
**山本**：幅広く学んだことは後から必ず役に立つからね。  
**大羽**：産婦人科に行きたいから産婦人科だけ、というのでは視野が狭くなるような気がして…。例えば救急で妊婦さんが来た時に「この薬を使ってもいいのかな？」と判断するのは、内科的な視点が必要ですね。麻酔科で血圧が下がっていく患者さんを診たことで、手術の際はなに気を付ければいいのかも分かりました。  
**矢野**：初期研修で学んだことは絶対に無駄にならないと思います。昨日も婦人科の患者さんがせん妄を起こしかけていると連絡が入り、研修医の時に精神科で学んだ知識があつたから対応できました。産婦人科のことは3年目以降で目いっぱい学べるしね。  
**山本**：大羽先生は今度2回目の産婦人科での研修が始まるよね。次は帝王切開を執刀してみようか！  
**矢野**：私が初めて執刀したのは3年目の後半だったよ。2年目で執刀できるなんて、貴重な経験。がんばってね。

**大羽**：はい、がんばります！  
**矢野**：難しい症例の経験を積むことができるのも、異常分娩・妊娠症例を多く扱っている当院の強みの一つですよ。  
**山本**：2017年度の分娩総数は690件で、今年度はさらにそれを上回るでしょう。分娩の半数は帝王切開で、低出生体重児も多い。若い先生たちにはそうしたレベルの高い医療に関わりながら、それを継続させていってもらいたい。  
**矢野**：難症例が多く、必ずしも無事に出産できるわけではないので、タフさも求められていると感じます。  
**山本**：できる限りのことをやって、結果を受け止める。周産期母子医療センターとして小児科との連携も欠かせません。現在、当院では「総合周産期母子医療センター」の認定を目指して準備を進めているところですが、ハード面の整備はもちろん、対応できる人員をそろえることが絶対条件。産婦人科でも医師を6人から8人に

増員する計画です。  
**矢野**：これまで妊娠週数が浅い妊婦さんは、連携するセンターに送っていましたが、認定されればそうした患者さんにも対応できるようになります。  
**山本**：高度医療を提供する一方で、産婦人科での診療は患者さんの気持ちに寄り添うことが大事。外来で胎児に異常がないかを調べる検査をした時に、赤ちゃんの顔を3Dに見せてあげるととても喜ばれます。うれしそうなお母さんの顔を見るのが、私としても一番うれしい。  
**矢野**：私も「先生に診てもらえてよかった」と言ってもらえた時は、本当にうれしいです。それが医師としての自信にもつながっています。同じ産婦人科医である父からは、「自分が出産に関わった赤ちゃんが大人になってまた来てくれる、それが産婦人科医の喜び」だと言われました。  
**大羽**：人生のスタートに関わる産婦人科は、これからも絶対になくはない分野ですよ。



HOSPITAL DATA



独立行政法人 国立病院機構  
**福山医療センター**  
〒720-8520  
広島県福山市沖野上町4-14-17  
TEL：084-922-0001  
<http://www.fukuyama-hosp.go.jp>

